

編集後記

また今年も英語コミュニケーション学科の紀要が出版される時期を迎える。研究者であるが、生涯に渡る学習者でもあるわたくしたちにとって、学科紀要は生命維持に必要な水のようなものだ。学科紀要によって、わたくしたちは、学びの場を与えられ、相互に刺激を与え合う場を提供されるからだ。そんな大切なものでありながら、1年に1本か2本の論文を仕上げるのがせいぜいのわたくしには、紀要に原稿を送るだけの余裕がないのが正直なところである。同じ理由かどうかわからないが、最近は学科紀要への投稿数が減少している。

そんな中で、毎号欠くことなく投稿を続けておられるK先生のことを紹介しよう。先生は、現在は学科にはほとんどお見えにならないが、学科のことをこよなく愛していること、学科の発展のために自ら範を垂れることを、定期的な紀要への投稿によって示されていると思う。夏休みには紀要の原稿をまとめ、正月明けに論文を提出するのが自分の決まりだとさりとおっしゃる中に、真摯な研究者の態度だけではなく、学科への深い思いを感じるのである。本学には論文投稿の機会が豊富にある。学科の中には、より専門性の高い学内の他の紀要へ定期的に投稿しておられる先生もいる。だから、1年を通してみれば、学科の学内における研究公開の活動は活発である。

投稿にはあまり余裕のないわたくしではあるが、学科紀要の大ファンである。4月になると日ごろは仕事の仲間である同僚の研究者としての姿が見えてきて刺激を与えられる。分野が異なっているので、掲載される論文のすべてが理解できるわけではないが、通読して新たな知識を得ることは喜びである。この号が出版される頃には、新入生を迎え、学科は繁忙期に入っているはずである。そんなときに、紀要は、わたくしたちに命の水を注ぎ込み、研究者としてのわたくしたちを生き返らせてくれよう。本当にありがたいと思う。普段から仲良しの集団である英コミの教員団が、紀要を通して研究者としての絆を深め、さらに切磋琢磨して紀要を充実させるという使命も大切にしたい。

英語コミュニケーション学科長 緑川 日出子

紀要編集委員 ショーン・マッケープ、森本真一

☆掲載論文の無断転載を禁じます。

| | | | | | |
|-------------------------|--|-------------------------------|--|-------------------------------|--|
| 発行所 昭和女子大学 近代文化研究所 | | 印刷所 三 秀 舎 | | 学苑 七百八十六号 | |
| 〒154-8533 東京都世田谷区太子堂一ノ七 | | 編集発行人 竹 田 喜美子 | | 定価 八四〇円(本体八〇〇円) | |
| 電話 03(三四一一)五三〇〇 | | 平成十八年三月二十日 印刷 平成十八年四月一日 発行 | | 購読料 一カ年分 一〇〇八〇円 (本体 九六〇〇円) | |